

# 日巻 花育子どもにも好影響

## 推進協セミナー 学校美化や交流

全国の事例発表

子どもたちに花と緑への関心を高めてもらおうと、全国花育活動推進協議会は26日、千葉市で花育推進セミナーを開いた。チューリップの花を使った花絵や地域との交流など先進事例の報告があり、今後の活動へのヒントを投げ掛けた。

新潟市花育推進委員会の今西弘子委員は、球根育成のために廃棄されるチューリップの花を利用

した花絵作りなどを紹介。今西委員は「花育には地域性と多様性が重要。生物多様性への関心が高まっており、今後は自然環境に優しい花育が求められる」と話した。

大阪府泉大津市立旭小学校の石橋敏彦校長は、「花いっぱい活動」として3年間の活動を紹介。

生け花教室で伝統文化の理解促進や、地域住民と共に育てた花で卒業生を

祝った事例を挙げた。石橋校長は「花育が学校の美化に貢献し、地域内での交流も増えた。児童らの心が豊かになった」と報告した。このほか、神奈川県秦野市立東小学校が生け花授業、特定非営利活動法人（NPO法人）「感性の教室」が植物素材を生かした創作活動を紹介した。

セミナーは今回で3回目。関係者ら80人が参加した。推進協事務局は「多様な花育の事例を伝えることで今後、花育を担う人材育成に力を入れていきたい」と話した。